

一般社団法人 日本生態学会

2021 年度第 4 回通常理事会

1. 日時：2022 年 2 月 19 日（土）13:00～17:40
2. 場所：キャンパスプラザ京都第 1 演習室・オンライン（zoom）
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）
（理事）湯本貴和、宮下直、大塚俊之、佐々木雄大、本庄三恵、
中川弥智子、久米篤、木村恵、内海俊介、東樹宏和、中野伸一、
吉田丈人、西廣淳、近藤倫生、辻和希、鏡味麻衣子、北島薫、
宮竹貴久、村岡裕由、和田直也
 - ・監事：齊藤隆、永松大
 - ・オブザーバー：陶山佳久、永光輝義、小池文人、高橋佑磨
 - ・事務局：鈴木晶子

4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 20 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い湯本貴和会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、湯本貴和会長、齊藤隆監事、永松大監事とし、議事録作成者は大塚俊之専務理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料 1 に基づいて大塚専務理事より民間財団研究助成への学会推薦を行ったこと、2 件のシンポジウムへ協力・後援承諾を行ったことの庶務 3 件の報告と、9 件の会計報告があった。
 - ・2021 年末時点で会員数・学生の会費納入率が減少しており、2021 年が完全オンライン大会で発表数が減少したことが影響しているとの報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
 - ・資料 2 に基づいて陶山前編集長より Article type の一部変更、受賞記念論文刊行状況、大会時の ER フォーラム開催について報告があった。
3. 大会準備状況報告（アンケート、行動計画）
 - ・資料 3 に基づいて大塚専務理事より ESJ69 の現地参加登録者へのアンケート結果について、80%が現地参加予定もしくは状況が改善すれば現地参加したいとの回答であったことが報告された（新型コロナ感染拡大の状況が予想できず準備進行が難しいため完全オンライン開催に決定した経緯は湯本会長より会議冒

頭に説明があった)。

- ・ 資料3に基づいて大塚専務理事より ESJ69 非常時対応の行動計画について報告があった
- ・ 高橋大会企画委員長より ESJ69 準備状況報告として、完全オンライン大会への移行について企画委員会では特に負担増にはなっていないこと、現在の参加者数登録数が1856名であること、完全オンライン大会でも盛り上がるイベントを用意していること等が報告された。

4. 学術会議報告

- ・ 吉田理事より若手アカデミーのシンポジウムが企画されていること、2023年3月10～12日に国際生物科学連合(IUBS)の大会が日本で開催されること、マスタープランがなくなり代わりとなる重要な学術研究の取りまとめがなされることが報告された。
- ・ 北島理事より生態科学分科会について報告があった。

5. 各種委員会報告

<生態系管理専門委員会>

- ・ 資料4に基づいて西廣理事より調査提言部会でグリーンインフラ・NbSに関して政策提言論文投稿の見通しが立ったこと、キャパシティビルディング部会でオンラインワークショップを12月に実施したことが報告された。

<情報交流支援専門委員会>

- ・ 資料4に基づいて村岡理事より、新 Jeconet が運用開始し登録者が2691名であること等報告された。また、トラブル時の対応や Jeconet 担当者のリクルートが今後の課題との報告があった。

<キャリア支援専門委員会>

- ・ 資料4に基づいて木村理事より ESJ69 にてキャリア支援相談窓口・CPD 単位の申請・キャリア支援フォーラム・ランチセッション等を行うこと、生態学会各受賞者におけるジェンダーについて報告があった。

<自然保護専門委員会>

- ・ 資料4に基づいて和田理事より委員会 HP を準備していること、要望書提出基準を委員会内・地区会でわかりやすく共有できるように整備していることが報告された。

<生態学教育専門委員会>

- ・ 資料 4 に基づいて湯本会長より「教養の生態学」の出版について報告があった。また、印税の著者分配や、原稿料の支払い可能性なども検討していくことになった。

6. 監査報告

- ・ 資料 5 に基づいて齊藤監事より 2021 年監査を行い適正に行われたことが報告された。また付帯意見として次年度繰越金について目安を定めること、会員への説明をすることの要望があった。

7. INTECOL 報告

- ・ 資料 6 に基づいて村岡理事より INTECOL Board および Executive Committee による運営正常化を進めていること、ジュネーブ大会の準備状況の報告があった。

8. 自然史学会連合報告

- ・ 資料 7 に基づいて辻理事より自然史学会連合の総会が行われ博物館法改正についての取り組み、2022 年は分担金を徴収しないこと等が報告された。

9. その他

- ・ 宮下副会長より生物科学学会連合報告として大学入試の生物用語について報告があった。
- ・ 中野理事より第 4 期中期目標計画期間中の京大生態研の運営について報告があった。

審議事項

第 1 号議案 大会開催地区会（北海道）について

- ・ 資料 8 に基づいて大塚専務理事より 2025 年大会開催地区について、順番として北海道地区での開催になるとの説明があり、北海道地区での開催が全会一致で承認された。

第 2 号議案 2021 年度決算案について

- ・ 資料 9 に基づいて本庄会計担当理事より、収入はほぼ予算通りだが新型コロナウイルス感染拡大で対面や移動を伴う活動が減っているため支出が予算より少なく 1088 万円の黒字となったとの方向があった。
- ・ 2021 年一般会計・特別会計・貸借対照表の決算について全会一致で承認された。

第3号議案 2022年度予算案について

- ・ 資料10に基づいて本庄会計担当理事より2022年予算の提案があり、全会一致で承認された。

第4号議案 役員選任について

- ・ 宮下副会長より2022年3月で任期満了に伴う新理事・監事候補の提案があり、全会一致で承認された。

第5号議案 委員の承認

- ・ 資料2に基づいて陶山前ER編集長より新ER編集委員の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料4に基づいて和田理事より新自然保護専門委員の提案があり、全会一致で承認された。

第6号議案 ER編集委員会からの審議事項

- ・ 資料2に基づいて陶山前ER編集長よりER掲載論文1報の撤回について説明があり、全会一致で承認された。
- ・ 資料2に基づいて陶山前ER編集長よりER論文賞候補論文の説明があり、編集委員会から推薦のあった5報について全会一致で承認された。

第7号議案 自然保護専門委員会からの審議事項

- ・ 資料4に基づいて和田理事より自然保護専門委員会内規改訂について提案があり、全会一致で承認された。
- ・ 資料4に基づいて和田理事より「苫東厚真風力発電事業計画の事業区域の変更を求める要望書案」の説明があり、学会長名での提出を総会議案とすることが全会一致で承認された。

第8号議案 男女共同参画学協会幹事学会TFの設置

- ・ 資料11に基づいて木村理事より説明があり、男女共同参画学協会幹事学会運営タスクフォースの設置(2023年12月期限)が全会一致で承認された。

第9号議案 ANEMONEコンソーシアムへの発起メンバーとしての参加について

- ・ 資料12に基づいて近藤理事より説明があり、生態学会がANEMONEコンソーシアムへの発起メンバーとして参加することが全会一致で承認された。

第 10 号議案 英文誌 TF 答申について

- ・ 資料 13 に基づいて久米出版担当理事より英文 3 誌の今後の出版体制について説明と本庄会計担当理事より会計状況の報告と今後の見通しの説明があった。
- ・ 今後の出版体制と科研費申請（国際情報発信強化）については継続審議となった。

第 11 号議案 自然再生エネルギータスクフォース審議事項

- ・ 資料 14 に基づいて湯本会長より説明があり、名称を「再生可能エネルギータスクフォース」と変更すること、タスクフォース委員の追加が全会一致で承認された。
- ・ 「再生可能エネルギーの推進と生態系・生物多様性保全に関するガイドライン」については理事が目を通したうえで意見聴取し、公表方法を検討することになった。

第 12 号議案 規則改訂について

- ・ 資料 15 に基づいて大塚専務理事より「地区会、編集委員会、専門委員会等規則」改訂案の説明があり、特別委員会の記載を追記した変更案が全会一致で承認された。

第 13 号議案 総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定について

- ・ 資料 16 に基づいて大塚専務理事より説明があり、総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項が全会一致で承認された。

その他

- ・ 活動方針（アジェンダ）改訂について湯本会長より説明があり、今後の学会の動きも踏まえて数年後の改定を目指すことが報告された。

閉会：以上の議事を終え、17 時 40 分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2022 年 2 月 19 日

会 長 ： 湯 本 貴 和 ⑩

監 事 ： 齊 藤 隆 ⑩

